スマートラインニュースで初めて オンラインインタビューにご協力いただきました！

社会医療法人 水和会
倉敷リハビリテーション病院

看護副主任　黒田氏　　介護福祉士　弓削氏

倉敷リハビリテーション病院は、回復期リハビリテーションの提供と遷延性意識障害の患者さんのケアについて、全国でもいち早く取り組んだ高度専門病院です。

スマートフィット テープ止めタイプ
新しく導入していただきました。

オンラインインタビューとは？

●今回使用したのは【Zoom】

Zoomとは、パソコン・スマートフォン・タブレットなど、様々な端末で使用することができる、クラウドサービスです。今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、このアプリケーションを活用しオンラインでインタビューを実施させていただきました。ご家族様との面会だけでなく、様々な研修がWeb会議で実施されるようになってきております。この記事ではインタビューや紙おむつの勉強会の様子もご紹介いたします。

●今回オンラインでインタビューをお受けいただきましたが、ご家族様との面会にも活用しておられますか？

黒田　「現在は面会を禁止し、オンライン化しています。台数に限りがありますので、予約制となっています。特に精神的に不安定な患者さんにはご家族様とリラックスしてお話する時間を大切にしていただきたいので、機器のセッティング後、私たち職員は席をはずして会話をしていただいています。」

初めてスマートフィットテープ止めタイプを見たときは、どう思われましたか？

黒田　「とにかく良く伸びることが印象的でした。従来の紙おむつは本体自体が伸びず一部分のみだけ伸縮しますが、スマートフィットは商品全体がよく伸びるのでフィットしそうだなと思いました。また、中央にあるピンクのギャザーが見たことがないものだったので新鮮でした。」

弓削　「立体ギャザーが高くて、良い印象を持ちました。紙おむつのギャザーを無理にソケイ部にフィットさせようとすると、ピンと固く張る感じになってお肌に刺激を与える心配がありますが、スマートフィットは立体ギャザーがやわらかく、沿わせやすそうに思いました。」

実際に使い始めて、印象は変わりましたか？

黒田　「うすさに関して大丈夫かな？と思っていましたが、しっかりフィットすることで尿モレが減ったという報告を受けて、ぜひ使いたいと思うようになりました。」

弓削　「特に細い方の尿モレが無くなりました。拘縮があって仰臥位の維持が困難な方に使用したのですが、パッドがズレにくく、すきまなくフィットさせることができました。ズレにくい＝モレにくい、ということを実感しました。」

紙おむつを選ぶときに、重視するポイントはありますか？

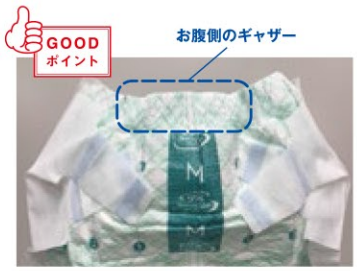
黒田　「患者さんの負担、スタッフの使いやすさ、様々な視点から検討を重ねた上で選定しています。尿モレによる汚染は、患者さんだけでなくご家族様にとっても洗濯物が増えて負担になります。また、全体のコストも気になります。これまでもあて方を工夫して対応していましたが、解決しきれなかった部分がありました。」

弓削　「色々な側面からの判断ですが、例えば人工呼吸器をつけている方にとって、尿モレが起こった際の衣類・シーツ交換の負担は大きいです。モレを少なくすることは、患者さんの負担を減らすためにも大切だと考えています。」

短期間で新しい紙おむつを導入するのは大変だったと思いますが、どのように進められましたか？

黒田　「サンプルをもらって各病棟で使用してもらい、少しずつ良さを知ってもらいながら、最終的には院内スタッフのコンチネンスサポートチーム（CST）で導入を希望した形です。前に使用していた紙おむつもあて方を勉強して覚えたばかりでしたが、アンケートをとってみると皆がフィット感を評価していたので、抵抗感なく導入できる手応えを感じました。」

弓削　「お腹側にギャザーがあるテープ止めタイプは初めてで、この部分を伸ばして止めるという習慣がなく、慣れていない部分はあります。ただ、この前側のギャザーがないと体からテープ止めタイプがズレやすくなるので、上手く使いたいなと思っています。」



黒田　「あて方については、集まって研修がしたかったのですが、密を避けるために数名ずつ呼んで伝えることを繰り返しました。まずはCSTメンバーがリフレサポーターさんからオンライン研修や訪問でそれぞれに少人数で研修を受け、CSTメンバーから伝達していきました。」

オンラインでの紙おむつ勉強会はご要望が増えております！今回のインタビューで、離れた場所でもスムーズに会話ができ、オンラインの良さを改めて実感できました。

今回はお話を聞かせていただき、ありがとうございました。